

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。
- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
 - ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
 - ・地域に信頼され誇りとされる学校
- 【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。
- ・確かな学力とキャリア意識
 - ・主体的に考え行動する力
 - ・知徳体備わった豊かな人間性

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、基礎的・基本的な学力（「確かな学力」）の定着と発展的な内容への取り組みをめざす。
- ア 進路目標に応じたコース（文理系・文系・総合）の指導を強化し、進路指導等のホームルーム活動やガイダンス活動を充実させる。
- イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。
- ウ 「学習基礎」（朝のモジュール型学習：通称朝学）で、モジュメディアステーション（一斉配信機能付き電子黒板）を活用して「確かな学力」を身につけさせる。
- エ 平成27年度学校経営推進費事業において支援が決定された「英語多読・多聴ステーション」を核にし、生徒の英語力の向上等を図る。
* 学力生活実態調査において、平成28年度にBランク以上の成績を有する生徒が、学年総数の過半を占めることを目標とする。
* 25年度より導入した英語学力調査のスコアの向上（各学年平均1年推移での上昇：初年度15P、2年度20P、3年度25P）をめざす。
- (2) 「充実した授業」をめざし、授業力向上に取り組む。
- ア 学習支援室を主体として、教員の授業見学や研究授業の活性化など、教科横断的な授業力向上への取り組みを充実させる。
- イ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業改善に努め、生徒の授業充実度を向上させる。
- ウ 視聴覚教材メニューを充実させて、「モジュメディアステーション」の積極的活用を図る。
* 「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目8・9「興味・関心」「知識・技能」）について、1回目より2回目を2ポイントアップさせる。（平成26年度1回目67→2回目68%）
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
- ア 授業の充実の他、講習・ガイダンスの充実等をはかるとともに、英語学力調査を指標として、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
* 中堅・難関大学現役合格者数100名以上。センター試験受験者数100名以上。

2 志学・総合学習の推進

- (1) 志を持ったよき社会人として、自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。
- ア 企画立案する志学総合推進チーム内の企画グループと実践グループが、志学・総合学習を推進していく。
- イ 志学総合推進チームは、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取り組みになるよう企画立案・実践していく。
- ウ 平成25年度改訂の志学テキストの内容の充実・改善に努め、活用を促進していく。
- エ 人権（基礎）教育、ボランティア活動、キャリア教育、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。
また、「モジュメディアステーション」を活用して、全体および分野別の指導をマニュアルに沿って実践し、高い志をはぐくむ。
- (2) 語学研修等の充実を図る。
- ア 国際交流委員会の活性化と語学研修等の充実を図る。

3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 生徒支援体制の確立
- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、課題を抱える生徒や自己に責任がない理由で学校生活を送ることが困難な生徒、障がいがある生徒等に対する支援策を考えるとともに、「個別の支援計画」を作成し支援していく。
- イ 支援の必要な生徒に対する支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と実際の支援の充実を図る。
- ウ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育祭等の諸行事をさらに活性化させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、互いの信頼関係を促す。
- エ 生徒のマナー意識、規範意識等の向上をめざし、あいさつのできる生徒、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止をめざす。そのため、生徒自治会と連携して、あいさつ運動・安全指導・マナー向上運動等を実施する。
- オ 人権教育を中心に、命の大切さを学び、自他を大切に作る基礎的な人権意識の醸成を図る。
- カ 夢を育み目標をかなえるライフプランを作成させることで、将来に向けての意欲を引き出し、生徒それぞれの潜在能力を開花させていく。
* 遅刻者数の前年度比10p減をめざす。
- (2) 学校運営体制の強化
- ア 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- (3) 開かれた学校づくり
- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動を展開していく。
- イ 創立90周年（平成24年度）の記念事業の成功を踏まえて、今後、生徒・保護者・教員・同窓会等オール阿倍野態勢を推進していく。「阿倍野高校前進プラン100」の推進など、さらなる進化発展（「めざす学校像・生徒像」の実現と、地域・関係者からの高い評価）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校が楽しい」について保護者の肯定値が80%を超えている。また「入学して（させて）よかった」という生徒は80%、保護者は90%を超えており、この状況を今後も充実発展させていきたい。</p> <p>【学習指導】教員の肯定値「指導方法の改善・工夫」が91%と昨年に比べて4ポイント上昇した。「思考力・問題解決的指導」が61%、「ICTの活用」が37%と昨年に比べて7～10ポイント下降した。また、生徒の肯定値「授業が分かる」が72%（3ポイント上昇）、「質問しやすい」が71%、「補習講習が十分」が83%、「ICTの活用」が66%と、昨年に比べて共に7～12ポイント上昇しており、教員と生徒が共によりよい授業をめざして努力した結果が表れた。</p> <p>ただ、教員の「授業の改善・工夫」に関する肯定値が約91%なのに対して、生徒の「分かる・質問しやすい」肯定値が70%で留まっており、両者の意識の差は依然として継続課題である。</p> <p>また、「ICTの活用」についても教員37%に対し、生徒66%の肯定値の差があり、ここでも意識の差が表れている。</p> <p>【生徒指導】「基本的生活習慣の確立」についての肯定値は教員90%、生徒85%、「生徒指導方針に理解」について保護者の肯定値は86%と共に高く、遅刻指導をはじめ、服装やマナー指導については確立されており、学習環境を整え、社会性を身に付けるという共通理解も得られている。その一方で「教育相談」51%、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」61%で教員の肯定値は留まっており、「悩みに親身になって応じてくれる」57%「気軽に相談できる」47%と生徒の肯定値も低く、教育相談の体制の見直しやカウンセリングマインドの啓発などの課題がある。</p> <p>進路指導については「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の生徒の肯定値が82%、保護者が83%と高い評価になった。また「きめ細かい指導」については、教員の肯定値が75%と昨年度に比べて17ポイント上昇しているが、生徒の肯定値が昨年度同様66%と低い。双方に意識の差が表れている。</p> <p>【学校運営等】「適正・能力に応じた校内人事や分担がなされ、意欲的に取り組める」「分掌・学年の連携・組織的に機能している」「各種会議が意思疎通・意見交換の場として有効に機能している」についての教員の肯定値が42～51%であった。継続課題として、報告・連絡・相談を心がけ、各会議での情報の共有化を図ると共に、会議が有効に機能するよう目的の明確化や実施形態の工夫等を行う必要がある。しかし、「PDCAサイクルの推進」の肯定値が72%と昨年度に比べて19ポイントも上昇しており、緩やかではあるが各分掌や学年、教科などで振り返りを元に次年度の計画を検討する努力をしていることが伺える。</p> <p>また、施設・設備面に関しては昨年度に比べて、「破損物の修理」について生徒の肯定値が51%で3ポイント下降、「学習環境面での満足」について保護者の肯定値が65%で1ポイント下降し、トイレをはじめ施設面への不満が高まっていることが明らかになった。</p>	<p>第1回(7/8) 学校全般の施設について、清掃も含めた状況の悪さの指摘があった。遅刻数の減少及び多読・多聴学習推進については、学校経営推進費に選定もされたこともあって、多くの方から評価された。</p> <p>第2回(11/10) 本校の公開授業週間を利用し、6限目の授業のいくつかを見学。多読の授業や電子黒板の使用など、興味をもって見学された。関連して授業改善の取り組みについて報告。その制度についての質問の中で、先生同士のコミュニケーションについての質問があり、現状を報告。</p> <p>第3回(2/16) 授業アンケートについては、生徒評価の扱いについて意見交換。学校教育自己診断では教員同士も意見交換などのコミュニケーションをとれるよう工夫できればと提言。経営計画では学習時間など、設定した目標値について意見交換。</p>

府立阿倍野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 学力向上と進路実現	<p>(1) 学力向上・進路実現に向けた取り組みの強化</p> <p>ア 授業改善を進め、学力向上に向けた取り組みの強化</p> <p>イ 新教育課程の取り組みの充実</p> <p>ウ 進路指導方針の確立と生徒支援・進路実現に向けての取り組みの充実</p> <p>エ 生徒へのガイダンス機能の充実</p>	<p>ア 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート(年2回実施)、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。</p> <p>イ a 「学習基礎」(朝学)については、モジュメディアステーションの活用による「みる」「きく」等の感覚機能を活かした取り組みを計画し、実施する。</p> <p>b 「学習・進学PJ会議」を中心に、学習面、進路面での諸課題に迅速かつきめ細かに対応する。</p> <p>c 「土曜学習会」をはじめ、学習支援への取り組みを充実する。</p> <p>ウ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。</p> <p>b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実を図る。</p> <p>c 高校入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。</p> <p>エ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実)</p>	<p>ア a 授業アンケート、学校教育自己診断による経年比較。26年度(生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」70%以上)をめぐす。</p> <p>b 経験の少ない教員をはじめ、各教科で授業研究年1回以上の実施。</p> <p>イ a 一斉映像配信英語教材の研究と作成。生徒アンケートによる取り組み意識の肯定率1・2年70%以上をめぐす。</p> <p>c 「土曜学習会」参加者数150名と各講習参加者数の5%増加</p> <p>ウ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半を占めること。</p> <p>b 阿倍高塾次年度2年受講希望率、満足度の(H26順に13%、48%)のそれぞれ20p増加</p> <p>c ・学力生活実態調査等の成績の経年比較とBランク以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半を占めること</p> <p>・英語学力調査の変化(昨年比15Pアップ)</p> <p>・中堅・難関大学現役合格者数の100名達成</p> <p>エ 各説明会等での生徒および保護者アンケートの実施による検証を経て、充実・改善を進める。</p> <p>・アンケート「進路指導・情報提供に関する肯定値」の2p向上。</p> <p>・センター試験受験者(H26年度35名)の倍増</p>	<p>ア a 「わかりやすい授業・教え方に工夫」72%(◎)</p> <p>b 相互授業見学は一人当たり2回以上の見学を実施(◎)</p> <p>イ a 1・2年の生徒の取組意識77%(◎)</p> <p>b 学習諸行事について検討し、現行の阿倍高塾の方向性と、映像教材の次年度からの活用・運用方法を検討(○)</p> <p>c 1,2学期平均156名参加。昨年度から微減(○)各講習については前年度より講習数は増えているが、実数把握できず評価なし</p> <p>ウ a 受験年度においては大きく上回るものの、低学年時では達成できていない。(△)</p> <p>b 次年度2年非開講のため満足度の調査し、62%と14p上昇(○)</p> <p>c 学力生活実態調査においては、3学年平均、及び1・2年の英数国3教科とも目標を達成したが、3年で数学42.8%、国語40.9%と未達があった。(△)</p> <p>英語学力調査は2・3年平均18.6pアップ(◎)・中堅・難関大学現役合格者数107名(◎)(3月22日現在)</p> <p>エ 生徒アンケート「進路に関する情報提供」は3%ダウン(△)保護者アンケートは±0(○)センター試験受験者は80名(◎)</p>
(2) 志学・総合学習の推進	<p>(1) 志学、キャリア教育、総合学習を総合的に行う実施計画の推進</p> <p>ア 総合的に進める組織の充実</p> <p>イ 新教育課程を踏まえた取り組みの充実</p> <p>(2) 語学研修等の充実</p> <p>ア NZ語学研修等の充実を図る。</p>	<p>ア a 志学総合委員会で、学年と連携して新教育課程の総合学習および志学の指導内容を充実する。</p> <p>b 総合学習・キャリア教育の取り組みの推進および志学テキストの活用の充実を進める。</p> <p>イ a これまでの取組の検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。</p> <p>b 「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、美化活動をより推進する。</p> <p>ア 国際交流委員会の活性化を図り、語学研修等の充実を具体化する。</p>	<p>ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。</p> <p>b ・アンケート「働くこと」の大切さ理解26年度93%の維持向上。</p> <p>・教員アンケート肯定値「キャリア教育」(46%)の5p向上。</p> <p>イ a アンケート「豊かな心や生き方について考える機会がある」1年肯定値(26年度77%)の5p向上</p>	<p>ア a 計画に基づき系統立てたキャリア学習を実施した(○)</p> <p>b 生徒アンケートの肯定値93%(○)キャリア教育についての教員アンケートは58%と12p向上(◎)</p> <p>イ a 取組は全て推進(○)アンケートの1年肯定値は74%と微減(○)</p>
(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり	<p>(1) 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図り、集団生活の充足感を育成する。</p> <p>「高校生活支援カード」を面談などで活用。</p> <p>イ a 自治会を中心とした生徒会活動の支援体制の強化と、生徒部全体で各行事のより一層の進化発展をめぐす。</p> <p>b 何度も遅刻を繰り返す生徒に対する指導を徹底する。</p> <p>c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止(標語&啓発、推進月間・推進週間の設置)と自治会としての啓発活動の推進。</p> <p>d 風紀委員の役割の充実(挨拶・自転車駐輪指導等)</p> <p>e 生徒の健康管理と健康の意識を高める</p> <p>ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。</p> <p>b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。</p> <p>(2) 学校運営体制の強化</p> <p>ア 組織力の強化</p> <p>イ 教員の育成</p> <p>(3) より積極的な情報提供と広報活動の展開</p> <p>ア ホームページの充実を図る</p> <p>イ 広報活動の展開を図る</p> <p>中学校訪問の戦略化を図る。</p>	<p>ア 自己診断の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値(26年度57%)を60%。</p> <p>イ a 各行事で生徒アンケートを実施</p> <p>生徒満足度80%(H26年度 体育大会、文化祭82%)をめぐす。</p> <p>b 遅刻者数→前年比10%減</p> <p>c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上</p> <p>e 保健HRの実施を行い危険薬物についての知識を高める。</p> <p>ウ a 安全点検を実施し、アンケートの回収率を高め速やかに改善されるよう関係部署に連絡する。</p> <p>b 学校教育自己診断「清掃がいきとどいて」の肯定値50%以上の維持上昇</p> <p>ア 教員アンケート「分掌・学年の連携・組織的に機能している」(42%)の向上</p> <p>イ アンケート「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」H26年度66%を70%</p> <p>ア 学校教育自己診断(保護者)「学校のホームページをよく見る」の肯定値(26年度28%)30%以上をめぐす。</p> <p>イ 教員による中学校訪問数(26年度147校)を精査し100校程度にしぼる。</p>	<p>ア 身体上の問題により、支援が必要な生徒の支援や家庭事情により正常な就学の問題がある生徒への対応、親子ともに心理的に不安定となった生徒の対応等に当たった。評価指数に対する肯定値は昨年度とほぼ同じ(○)</p> <p>イ a H27年度 生徒満足度79%(体育大会、文化祭)(○)</p> <p>b 遅刻数→前年比15%減(◎)</p> <p>c 自転車事故、マナー違反については減少(○)</p> <p>e 全学年の生徒に対して薬物乱用防止のHRを実施し、知識が深まった(◎)</p> <p>ウ a 安全点検の結果に応じ、速やかに改善した(○)</p> <p>b 「清掃がいきとどいている」の肯定値55%(○)</p> <p>ア 「分掌・学年の連携・組織的に機能している」51%(◎)</p> <p>イ 「初任者等、全体で育成」43%(△)</p> <p>ア 「HPをよく見る」の肯定値33%(◎)</p> <p>イ 当初の計画通り実施できた(○)訪問校数は85校。</p>	